

2014.1.30

国・行政のあり方に関する懇談会 Vol.4
リスクとどう向き合うか
Graphic Recording

本データは懇談会における議論の可視化を目的として、富田 誠（東海大学専任講師）の指導のもと、早稲田大学大学院ジャーナリズムコースの学生と東海大学デザイン学課程の学生が制作しました。

制作 富田 誠（東海大学教養学部専任講師）
小澤拓哉, 川崎 敬仁, 小山拓也, 永井 結子（東海大学 芸術学科 デザイン学課程）
加川直央, 角野雅美, 宮本裕人（早稲田大学院 ジャーナリズムコース）

技術協力 株式会社 MetaMoJi （使用ソフト Share Anytime）

第1部 リスクとどう向きあうか

意見聴取



大木さん
専門: 地震学

インドでハザードマップ作り



1日目. なぜ地震が起こるのか講演 RRRR

2日目 子ども達が街を歩いてハザードマップ作り&発表



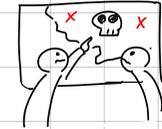
インドの子に5

このレクチャーを受けると
私の世界は安全だった



インドの子に5

命がいかに大切か
命を無駄にするな



ハンティング後



身の周りの
キケンに気づく

意識の変化はハザードマップを作ったとき

リスクのコミュニケーションをするときに、専門家がわかりやすく教えるだけではダメ。
知識が増えるだけでは変わらない。権威的な言葉で訴えるのではない

肉体的な説得力をもつ「個人の物語」が必要!

リスクをなとして抑えることはできない
リスクレポートを基案に
各自が納得して行動することは尤事



いかに自己決定的な個人にならなければならないかを
社会でどう包含するかの問題は？

→ 例には、障害者や在日外国人など

↳ 地震に備えて、市がピクトグラムを使って
外国人でもわかるように対処



経済学では
リスクと不確実性をわけて考える。

リスク

どのくらい確率で
どんなシナリオが想定されるか。
というモノ

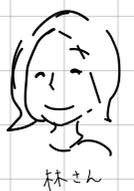
不確実性

どのイベントがどのくらいの
確率で起こるか分からないもの

インドの子供たちは不確実な世界からリスクの世界に変わったのでは？
不確実な認識をリスクに変える必要がある！

そのために必要なのは
「個人のリスクの許容度」

例えば→ バイオロジーの話
人間の体はウイルスが入った時に対処するようにできている。
入らないようにすればするほど侵入を許した時に蔓延する
＜自分で考える 自分で準備する＞ 主体性



今の会議にどこも議論されるキーワード

レジリエンスが重要では？

「より強くより完璧な」
という発想の限界を世界中が感じている

予測できない前提で危機が起こった時に
どう対処するかをどう考える

個人が中心となって如何に対処力を高めるか
国が言った、でも違った、だから文句を言うことから脱却

PRリカの強み
一度経験したことへの対処を
フレームワーク化すること
例えば プロジェクトマネジメント体系のPM BOK

同じ失敗を繰り返さない仕組みを
どうやったら私たちが作れるか？



土居さん

効率的なリスクマネジメントとは？

国民の税金を使うため最小費用・最大効果に

災害弱者(防災減災を自分でできない人達)への対応は重要

その人達ばかりを厚遇できない

できるだけ多くの人に防災・減災がもたらされる方法が必要



小林さん

低コストでどうリスクに向きあっていくか？

ハードではなく

ソフトパワーで対応力を高めよう

事例 軽井沢町の場合

年度初めに子供達全員が通学路沿い
すべてこの家に挨拶して回る

監視カメラのようなハードの対応ではなく
地域で子供を見守る仕組みができる。

事例 感染症予防の場合

37.5度以上の熱が出ると絶対に学校に
いかないルールが徹底

70以上のような病児保育の受け皿もある

事例

ゾーニングという都市計画

欧米先進国

行政が住む地域に開発規制の権限を持つ

日本の場合は、それほどの権限を持たない

私権を弱めてよいか？ 自助努力にすべきか
バランスを考える必要性

お金をかければリスクには対応できるが
そうではない方法も考える

地方自治体ごとの小さなエリアで
良い事例が見受けられる

ベストプラクティスを共有することに
行政のネットワークを活かす



石戸さん

自ら考え行動できる子供たちを育てるためのWSを運営している

→ 個人の危機対応の手法を手に入れることに

マクロレベルのリスクの対応は行政が対応する

何でも行政に委ねるのではなく、

基本的には小さな政府であるべき

行政の役割 規制緩和を進めイノベーション
起き仕組みづくりを進める



牛窪さん

とりにあらず見すべき情報はどこに!

情報の取捨選択の手法とは?

事例

集中豪雨による災害の時

県の情報、市の情報どちらを見るか?

見べき情報の優先度は?

事例

列車事故の時

報道よりもTwitterの方が参考になる

しかし、正しくないデマ情報も



西川さん

災害に遭わないよう指導する時

関心が高い人は大丈夫だが

関心の無い人にはどうすべきか?

地域や民間のコミュニティーの力が必要

三ア層も含め

情報リテラシーの教育が必要に



大塚さん

しかし

日本には災害訓練施設はある → 防災館など

持続せずスポット的である

体系化されていないという問題があるのでは

継続的かつ体系的なトレーニングに結びつかない



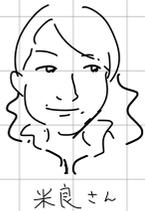
共助のプラットフォームを
国がやるのではなく国が支援する方法は？

事例 Community Crossing Japan は、
共助のプラットフォームと 被災のための研修のフォーマットを作り
をゆらを地域のリーダーに手渡していく活動

クラウドファンディングにより
人々から集められた予算と同じような額を
活動力のブーストのために資金援助しは？



脅威を感じるパニックに
→ 「どこが防衛でき、どこが脆弱か」を
はっきりさせる = リスク・リテラシーUP



どこから行政？ どこから民間？

日本でも NPO や ソシアルアントロポラーが増
行政にはベストプラクティスを広げる役割に期待

行政にセリググされること、コピペされ
時に巨額予算のついた事業になることも → 本意ではない

資金的に助成金を出してマッチング支援等
頑張っている人も伸ばしサポートする
役割に徹して欲しい



みんなが共有できるリスク

誰もが認識しているのが保険になる
例 地震・介護・健康保険 などに
マーケットに任せられることができる。

みんなが共有しにくいリスク

ある日いきなり貧困になるリスクもあるが
生活保護はあるが貧困保険はない。
起業に失敗するのは自己責任と思われず。
新しいことをトライする人の応援のためにも
何かあった時に大丈夫と思えることも重要



保険を作る立場リスクは細かく把握したい
国民にリスクを伝えることは本当に望ましいのか？

<2種のリスク> ①状況に応じて伝えるリスク ②伝えるべきではないリスク

例えば 隕石落下などの対処できないもの
起業で成功者の割合など

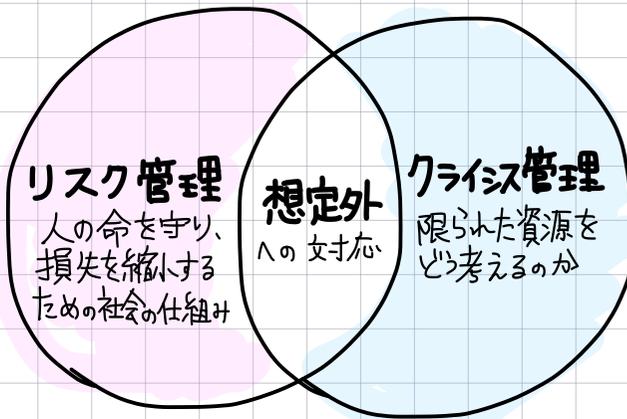
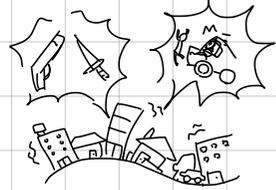
2 リスク対応における役割分担

1. 行政がなすべきことは何か



様々なリスク

- ・ATM故障後、預金口座がゼロになる
- ・飛行機が着陸できない
- ・パンデミック etc ...



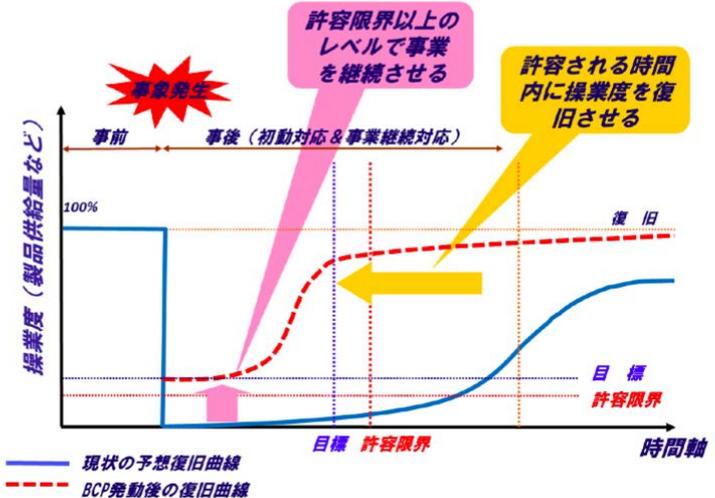
! 外国では災害発生後、エネルギー、情報、ロジスティクスを最優先
→ 日本にも **優先順位** の考え方が必要!

ex 致死率の高い感染症が発生した時のワクチンが
人口に比べて半かしかない時に誰から優先に配るべきか

→ 行政はリスクマネジメントのメニューの中から何をを使うのが決める役割を担うべき

事業継続計画 (BCP) の概念

事業継続ガイドライン 第3版
- (内閣府作成) より抜粋

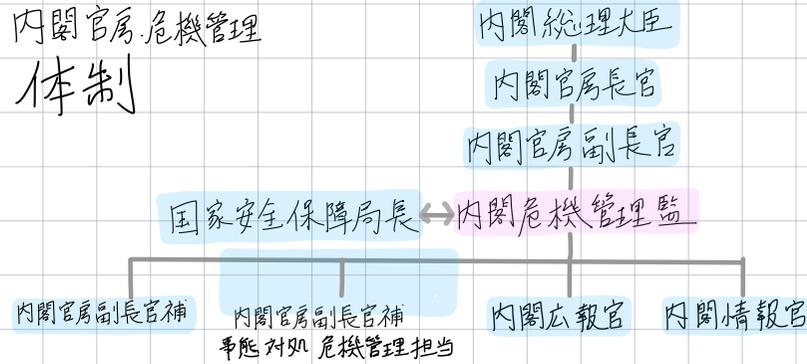




西川さん

政府における危機管理

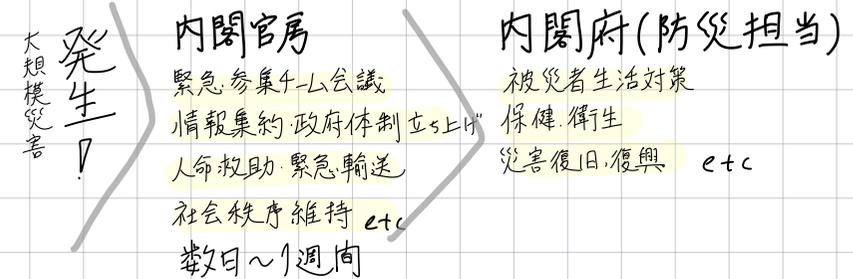
内閣官房危機管理体制



緊急事態の種類

大規模自然災害 重大事故 重大事件 武力攻撃事態 その他

複数の緊急事態に対応しなければならない



危機管理強化の経緯

阪神・淡路大震災 地下鉄サリン事件 etc.

1997 行政改革会議 中間整理
内閣の危機管理における意見集約

1998 内閣危機管理監の設置

2002 新官邸危機管理センター START

事例 311の初道対応

14:46 地震発生

4分後 官邸対策室設置 総理報告・総理指示

14分後 緊急参集チーム協議開始

28分後 臨時閣議

51分後 第1回緊急災害対策本部会議

74分後 第2回緊急災害対策本部会議

内閣官房役割

内閣

内閣官房 各省庁の総合調整

内閣府 施策の総合調整・内閣官房を助ける

各省庁 所掌に応じ施策実施

危機管理とは何か?

江戸時代の火消しと一緒に

↳ 情報が100%ない状態で発生している事態に対して

被害の拡大連鎖反応をどう切るか

↳ あなたの家を全部ぶっ壊して火を止めようという決断をしないため、このあたりが非常にリスクを負い相当なもの



官僚制とリスクの相性は悪い。

想定外の事態ではうまく機能しない仕組みだと思っ

東日本大震災時、行政は「迅速な対応」?

→ 世間のイメージとのズレがあるように思う



想定内のリスク... 思考停止にならず、起こってほしくないことは考えないという
日本人的思考を超えて危機管理することが大事

想定外のリスク... 事後対応能力を向上し、助け合いの精神を大切に

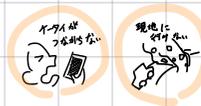


東日本大震災の時には高速道路を1週間が応急的に開通

→ 通常の政治的判断は不可能

→ そのほかの現場に任せると注(い)か(け)ないこともある

→ 国が方向性を示すべき時もある



政府の割り切りへの理解もないと、

unnecessary criticism and government should do its job
不要な批判をして政府がやるべき仕事を
委縮させて、ごまかしてはう。



資源不足のときに何を救うのか?

→ 災害医療の現場ではトリアージも仕方ないとの意識は定着しつつある

but 時間的切迫性のない状況で予防対象者の選別などを
行政に任せられるか? 国民の同意をどこまで担保する?



トリアージのように資源を集中することの
社会的合意をどう形成するの考える必要



トータルなリスクに対応するためにも
1人1人がオウリスクを取る前提に

海外ではオウリスクが原点にある。

全 誰かが何かをしてくれると思う

日本人のメンタリティーはリスクに一番弱い

2 リスク対応における役割分担

2 個人・コミュニティや企業が果たす役割は何か



砂金さん

CCP 地域の持続可能計画 Community Continuity Plan

← BCPの概念を
拡張

地域コミュニティが緊急事態において
事業の早期復旧, 継続を可能にするための計画

- 具体的には:
- ・地域コミュニティへの損害を最小限にする
 - ・優先度の高い地域需要供給の継続と早期復旧
 - ・平時に行うべき訓練内容の策定
 - ・緊急時における業務継続のための方法と手段の策定

行政だけでなく,
地域コミュニティの構成員が策定に参加することが重要!

事例] 鹿島市での事例

公民館における災害マニュアルの制作

ex. 携帯電話の充電ルール等を自前ヒールル化

事例] ゴミ出しカレンダーの裏に防災シート

すくわれしまわれない工夫 ← 住民のアイデア

住民主体の活動の
成功要因

1

組織のキーパーソン同士の
やりとりが効率性を高める

フォーマルな組織

ex. 消防団, 社協, PTA etc.

セミフォーマルな組織

ex. ボランティアNPO, 声かけ隊 etc.

インフォーマルな組織

ex. 分団, 坪内, 婦人会 etc.

コミュニティは色々なメンバーに存在

住民主体の活動の
成功要因

2

地域内の事業所が持つ
資源を活用する

ex. 発電機, 食材, 井戸 etc.

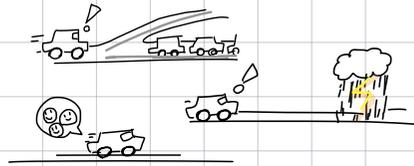
キーパーソンにより情報共有

資料4をもとに本田の今井さんの説明



ビッグデータ活用サービス

渋滞回避ルート導出
が1ラ豪雨回避
GPSで安否確認

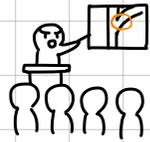


ビッグデータの応用

急ブレーキの多い
ポイントを調べる



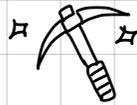
データを公開



市民の声を聞く



道路行政
改善お



東日本大震災時、亡くなった方の6%はクルマの中だった。
これが震災時の取り組みとして

迅速に情報共有できる
プラットフォームづくり。

災害に強い都市計画や
道路施策に使うツールを構築

But



全ての自治体どこに話をしていくことはできない。

→国として1つのプラットフォームをつくり上げてほしい。



人脈・地域コミュニティの可視化

真に危機的状況を
人的ネットワークで解決する

政府は人脈をどう管理している？



昔に比べれば
付き合いや情報交換が
少なくなったと感じる

企業にとってリスク研究がCSVに存る時代になっていくのでは？



企業でリスク研究を進められれば◎



個人で判断している
人々の役に立つものであれば、
個人の判断が認められる



事前にルールを作ることが重要

日本以外の多くの国では
どうルールを守らせるかが大事。

コミットメントのない都市部の
コミュニティは行政が監視し
対応おろさないのか？



都市群でどうコミュニティをつくるか？

都市部ないの
解決策があるのか？

お金で解決おろさ
ないのか

・新興マンション群のある地域では、
マンション管理組合やPTA、声掛け隊のような
ネットワークがコミュニティの代替機能を果たしている。



健康ミュージャンのような活動を通じてCCPに近づけらる。

高齢者には健康ミュージャンやスマートゴルフのようなネットワークを呼び出し、

コミュニティを形成しうる可能性が十分にある。



高齢化してからコミュニティを作るのは難しい。

- ① 高齢化が進んだ地域の
コミュニティ活動はどう支えるか？
- ② 行政に頼りがちだが 民間に何ができるか？

リスクという概念自体がない人には
どう伝えらるのか？



→ 「内的な説得力が得らる場」を
設けること

「大きい危険」と「小さい危険」

→ リスクはゼロにできない
しかし「小さい危険」にはできる

大人は「白」と「黒」の判断になりがち
更に規制で全てを白か黒にしてしまう

→ 自己で判断できなければならぬのに
行政が安易に規制することでその勉強機材を
失わせている。

エックで食中毒。

黒いエックしかないような議論になる。

しかし！本当は黒と白の間、グレーのエックがある。